

2021年5月6日
総会資料

一般社団法人えんがお

2020年度事業報告書

期間：2020年4月1日～2021年3月31日



一般社団法人えんがお
〒324-0051 栃木県大田原市山の手1-9-10
TEL 0287339110 E-mail engawa.smile@gmail.com
URL <https://www.engawa-smile.org>

令和2（2020）年度 事業報告書 （令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）

2021年5月6日
一般社団法人えんがお

Ⅰ. 事業の成果「新規事業とコロナ禍における葛藤、年間決算について」

2017年の5月に法人を開設し、会計年度としては4期目が終わろうとしている。2020年度は、前年度に立てた「新規の孤立高齢者との関わりの増加」の目標と反して、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、新規的な関わりを縮小せざるを得ない一年間であった。また、そういった感染拡大の影響の中で「人とのつながりを感じられる社会」を目指す自分たちの存在意義を、現場の声を聴きながら葛藤し、問い直す一年間であった。

まず、具体的な事業の変化を振り返ると、空き家・空き店舗の活用において3軒の物件が増え、徒歩2分圏内の物件が合計5軒となった（資料1参照）。2020年4月SHARE PLACE「てnocago-てのかご-」、2020年4月ソーシャルシェアハウス「えんがお荘」、2021年2月障がい者むけグループホーム「ひととなり」である。

「てnocago-てのかご-」は、独居高齢者の多くが孤食である課題に、週に一回程度学生なども交え多世代で食事をする「地域居酒屋」をメインの構想とし、構想の実現に向け、月3万円の家賃で賃貸契約を結んだ。さらに、地域食堂以外は「一日店長」の仕組みを設け、昼ブロック・夜ブロックそれぞれ4,000円の利用料で、ハードル低く挑戦ができる環境を作った。さらに、二階の6畳3部屋は「レンタルオフィス」とし、一部屋15,000円/月で貸し出した。コロナ禍の企業応援も含め値段は応相談として値下げしているものの、現在2部屋が埋まり、法人に新たな関わりを呼び込んだ。

ソーシャルシェアハウス「えんがお荘」は、えんがおサポーターの中で、共同生活をして費用を抑えながら、地域に密着して生活し挑戦する環境へのニーズが出たことで物件を探した。そのタイミングで、近隣の二階建て一軒家の寄付の申し出があり受領。本物件を用いて、社会性の高いシェアハウスとして「ソーシャルシェアハウス」を実現した。それぞれの節目での出入りもあり、延6名（現4名入居）の入居があった。

障がい者向けグループホームは、法人の関わる様々な立場の人の中で、障がいを抱えた人の入り口がないことをうけ、障がい者向け事業の構想が生まれた。加えて、2020年度の目標に「安定収入（固定収入）の確立化」があり、臨時理事会を設け議論した結果「障がい者向けグループホーム」の事業開設に至った。法人初の不動産物件の契約となり（これまでは大家さんとの個人契約または寄付物件）、約250万円の改修費・備品費などをかけ、2020年度で最も大きな影響を持つ新規事業となった。

これらの新規事業を進めてはいたものの、やはり新型コロナウイルスの影響は大きかった。特に、一般社団法人えんがおの目指す「多世代交流」は感染対策上非常に困難であった。一方、世代間交流事業にて日々関わっている高齢者からは「家にいるとおかしくなってしまう」「寂しい」「少しでいいから人に会いたい」などの声も上がり、緊急事態宣言下などでそういった高齢者の心身機能、生活の質をどう支えていくか、法人のミッションと社会情勢のすり合わせが難しい一年であった。実績値で見ても、ほとんど全ての事業で目標を達成できなかったどころか、昨年度実績を下回ってしまった。そう言った中、スタッフ間で何度もミーティングを重ねて出した結論は「いかに個人に寄り添えるか」である。例えば、3週間の自粛期間も、余命半年の人とそうではない人ではその意味は異なる。その人それぞれが、この状況をどう受け止めているのか。それを受けてどう生きていきたいのか。その想いに寄り添って、目の前の人にとって良い選択に近づける。あるいは、選択肢を増やして提示する。そして、その選択肢の中にある転倒・誤嚥や感染などのリスクを共有する。そのような結論のもと、それでも葛藤しながらではあるが、世

代間交流事業や訪問による生活支援事業を継続した。また、そういった葛藤を含む動きがNHKなどのメディアに取り上げられ、同じように悩む団体や個人との意識共有ができた。しかしながら、当事者の声と想いに引っ張られ、感染対策がやや緩くなってしまった部分があったことも否定できず、本年度の反省としてあげられる。

「新規の高齢者との関わりを増やす」という今年度の目標においては、感染対策上動くべきではない時期は多かったものの、近隣にも人とのつながりが希薄な高齢者が未だに存在していることを想定すると、法人としての努力が少なかった。具体的には、法人の会報誌「えがお通信」をより多くの人、特に近隣の人に配布するなどして近隣の人との接点の増加を図っていくべきであった。

決算の金額的数値を見ると、今年度は収入が14,125,209円であった。全体収入のうち、補助金が3,463,000円、加えて、新型コロナウイルスの持続化給付金や休業協力金が3,582,160円となった。自主財源の割合はまだ決して多くはなく、また障がい者向けグループホームの開設における改修費用の割合も多くあったため、実質的な収益は多くなかった。しかしながら新規事業がそれぞれ好調な部分もあり、コロナ禍での自主財源の確保という点においては最低限の収入は得られた。また、事業規模が1000万円を超え、関わる人の範囲が大きくなった事は4期目の一つの成果だと思われる。

割合を見ると、新型コロナウイルス関係の協力金や持続化補助金など、「感染の影響がない場合本当にその金額の収入があったか」を断定できない金額も多く、法人の実力を測れない収入の割合が多い。しかし、こういった給付金や休業協力金を得ている背景には、有事の際に備え「収入の柱を多く持つておく」という方針に従って、既存の高齢者支援の枠組みに囚われず、飲食業やレンタルスペースなどを「まちづくり」の枠組みの中で行なってきたことが挙げられる。

全体を通して、4期目の事業を語る上ではどうしても新型コロナウイルスの影響が中心にはなるが、実践事例発表会の参加者が170人を超えたことや、個人会員が100人を超えるなど、世代に関わらず法人に関わる人増えたことを実感する年であった。そして、まさしくその人たちに支えられて乗り切り、挑戦し続けた一年であった。また、その中で世代や障がいの有無にかかわらず全ての人が活躍できる「全世代参加型、ごちゃまぜのコミュニティ」の構想の実現が現実味を帯びた一年でもあった。5期目は、そのコミュニティを実現し、多様な立場の人の活躍の場を生み出すことが法人の使命の一つだと捉え、さらに多くの人を巻き込みながら挑戦を続けていきたい。

一般社団法人えんがお
代表理事 濱野将行

II.2020年度事業実績（2020年4月～2021年3月）

1.事業実績

事業の種類（定款）	項目	事業名	事業内容・名称（案）	備考（時期・頻度など）	2019年度実績	受益者収益及び範囲の目標値（実人数）	実績/年間（実人数）
生活支援事業	継続	制度外サービス	制度対象外の生活支援	通年	440件 (35世帯)	500件 (50人)	252件 (33世帯)
世代間交流事業	継続	世代間交流イベント	多世代交流イベントの実施	12回/年	438人	560人	3回 90人
	継続	みんなの家	1階：サロン活動	通年 水曜日休み	1245人	1500人	819人
			2階：学生向け勉強スペース	通年	1998人	2500人	2162人
活動促進	継続	講演会	介護予防意識 地域作り促進	依頼時	37件 (2130人)	50件 (3000人)	15件 (771人)
		学生活動体験者	学生の活動体験受け入れ	通年	延1000人		延600人
ネットワーク・コミュニティ形成事業	新規	えんがおベンチプロジェクト	市内ベンチの有効活用及び、新規ベンチの設置	通年	6脚 20枚	15脚 50枚	5脚 17枚
	新規	会員交流会（伝えNight）	地域活動についての勉強会・会員交流会	2ヶ月に1回	65人	120人	0回0人
	新規	えんがおハウス	遠方から活動体験に来る人の無料宿泊所	通年	101人	240人	101人
	新規	えんがお荘	若者・学生向けソーシャルシェアハウス	通年		入居者数5人	入居者数延6人
	新規	SHARE PLACE てのかご	地域食堂	通年			29回
			シェア店舗	通年			10店舗
			レンタルオフィス	通年			2企業
障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業	新規	障がい者向けグループホーム	共同生活援助	通年			2人
情報発信・出版事業	継続	情報発信	WEBサイト、SNS（facebook,twitter,Instagram）	通年	1585フォロワー	2500フォロワー	3160フォロワー
	新規		えんがお通信	隔月	年6回	年4回	年4回

2. 会員・団体名簿（2021年3月時点 順不同）

1) 個人会員 全101名

【正会員A】 議決権あり、1000円/月

横山 孝子様	千嶋 巖様	小松 優希様	乗川 聡様	門間 大輝様
濱野 将行様	土屋 綾子様	逸見 栞様	小林 千恵様	岩井 俊宗様
大島 洋子様	星 雅人様	林 美幸様	笹谷 朋弘様	松本 佑司様
大石 彩花様	萩原 涼平様	蔀 明穂様	山田 由紀子様	内山 裕介様
川田 浩也様	半田 充宏様	小堀 翔汰様	和泉 尚志様	河合 圭介様
橋本 康太様	塚本 貴大様	木塚 次子様	竿尾 友恵様	小林 華枝様
平野 靖子様	計31名			

【正会員B】 議決権あり、5000円/年

林 和輝様	潮 一生様	治面地 学様	町田 英俊様	渡辺 学様
富樫 奈美子様	秋元 直人様	高橋 昭彦様	江連 広士様	西川 光太様
塩田 典保様	伊澤 聡様	吉田 直樹様	小倉 一夫様	佐藤 真紀様
マターナウェイリ様	松本 昌宏様	湧泉 香織様	山中 隆弘様	福田 静子様
野田 恭子様	平子 めぐみ様	家守 千裕様	福田 利典様	小野崎 洋統様
井上 久美子様	吉田 晶子様	渡邊 貴也様	仲田 海人様	和嶋 歩様
計30名				

【賛助会員A】 議決権なし、1000円/月

家守美由紀様	Toshihiro Tasaki様			計2名
--------	-------------------	--	--	------------

【賛助会員B】 議決権なし、5000円/年

浅見 佐紀様	見目 夏輝様	薄井 静雄様	塚本 さゆり様	渡辺 典喜様
荒川 正子様	山崎 裕起様	川津 光由様	岸 辰典様	稲毛 礼子様
角田 修一様	野津手 貴子様	牧田 豊樹様	伊澤 啓子様	薄井 千帆様
本澤 知之様	計16名			

【活動会員】 入会費500円、永年有効（学生のみ）

坂田 亜美様	小堀 翔汰様	阿久津 清尚様	菊地 奏太様	會田 未来様
白井 真由様	角田 隼也様	宮内 祥帆様	大黒 雅基様	福田 健心様
福田 健太様	齋藤 李乃	江波戸 乃々香様	森谷 真衣様	佐藤 勇二郎様
氏家 綺莉様	村上 桃香様	鈴木 千夏様	林 杏菜様	星 優太様
齋藤 凜様	長谷川 翔一様	計22名		

2) 団体会員 全6社

・賛助団体A (年会費100,000円)

医療法人社団宇光会村井クリニック様、有限会社ケアサポートまもる様、エステサロンサウオリ様

・賛助団体B (年会費50,000円)

企業組合とちぎ労働福祉事業団様

・賛助団体C (年会費30,000円)

株式会社大田原まちづくりカンパニー様 株式会社サムライトサムシング様

3.メディア掲載回数

1) 紙媒体

・下野新聞 10回

・その他 2回

2) 音声媒体

・宮ラジ 3回

・その他 1回

4.運営体制

代表理事：1名

理事：8名

監事：1名

職員：常勤1名 非常勤2名、パート4名